



SHADE UP Navi Whitening Chart

監修：ノブデンタルオフィス
北原信也

はじめに

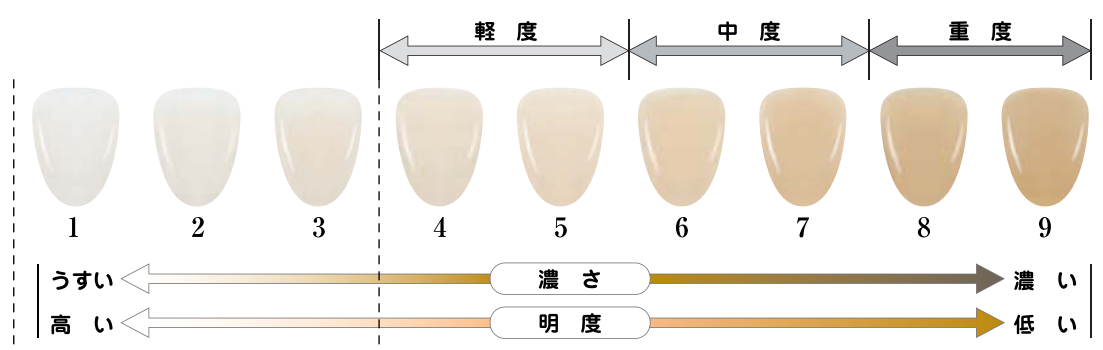
今までのホワイトニングは治療前に治療後を予想することができず、科学的根拠に基づいた歯科治療の一つであるとは言いがたかったと思います。そこで私の過去2000ケースに及ぶホワイトニングの症例を分析することで、診査、診断するシステムを体系化させることができました。「偶然歯が白くなった」ではなく、必然的に歯を白くする。これがこれからのホワイトニングです。

1 着色度

着色の診査については、色調の改善にFeinmanの分類を用いませぬ。明度および濃さを基準にしたシェードガイドを利用して、エンドポイントの設定や評価を行う際の具体的説明を行います。

■ 明度・濃さを基準にシェードガイドを三等分してください。

難易度順には、**3 重度着色 (No.9 No.8)** **2 中度着色 (No.7 No.6)** **1 軽度着色 (No.5 No.4)** となります。



※シェードNo.1~3はホワイトニング時の目標設定の指標としてご利用いただけます。
 ※重度の場合はシェードガイドを超える着色程度の歯もありますが、それは「重度着色」と分類します。

2 色の傾向(色調)

着色の診査には、その度合いとあわせて、着色の傾向を診断する必要があります。つまり、「寒色系」なのか「暖色系」なのかという違いを診査・診断します。

これは、トゥースホワイトニングの効果にかかわるものであり、暖色系の色調のほうがホワイトニングの効果を感じやすい傾向にあります。

これを難易度順に並べると、**3 寒色系(グレー、紫色)** **2 中間色** **1 暖色系(赤、オレンジ色)** となります。



3 バンディング

歯牙独自が持つ縞模様については、着色の程度や傾向の診査・診断と同様に、ホワイトニングの効果を左右する点で非常に重要なポイントになります。

過去においては、バンディングはホワイトニングの禁忌症とされていました。しかし現在は、縞模様が一時的に顕在化するものの、継続的な処置により緩解、消退することが知られています。

バンディングの診査・診断は、難易度順に、**3 色調が強い** **2 色調が弱い** **1 無** となります。



4 ホワイトスポット

ホワイトスポットはバンディングと同様にホワイトニングの効果に影響するポイントです。ホワイトスポットは、トゥースホワイトニングにより強調されてしまう場合と、同化して目立たなくなる場合があります。前者の場合は、コンポジットレジンなどの修復治療へ進める必要があります。

バンディングと同様に、難易度順で、

3 多い 2 少ない 1 無

になります。



5 顔の色

トゥースホワイトニング後に見る歯の色調の効果は、顔の色とも大きく関係します。おおよそ、白い顔の方より黒い顔の方のほうが、「白」とのコントラストの差が大きいことから、その効果を感じやすいと言えます。

顔の色による難易度順は

3 白い顔 2 赤みがかった顔 1 黒い顔

です。

白色顔



赤色顔



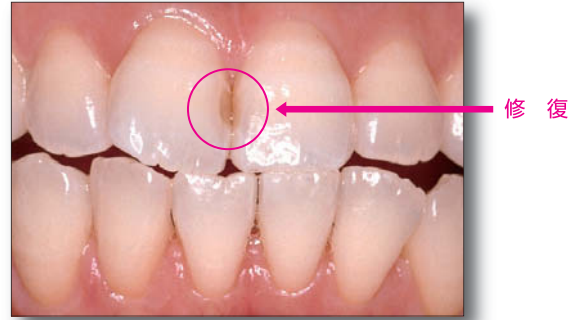
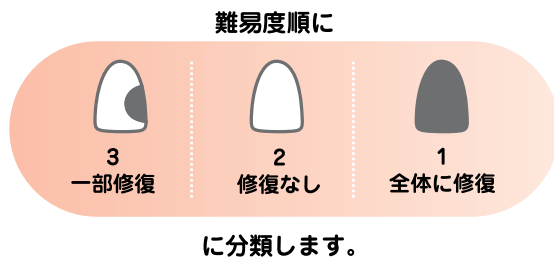
黒色顔



6

トゥースホワイトニングを修復処置の術前処置として用いる場合、その修復対象が「歯の一部を修復」予定なのか「全体に修復」予定なのかによって難易度が異なります。

修復処置 (歯)

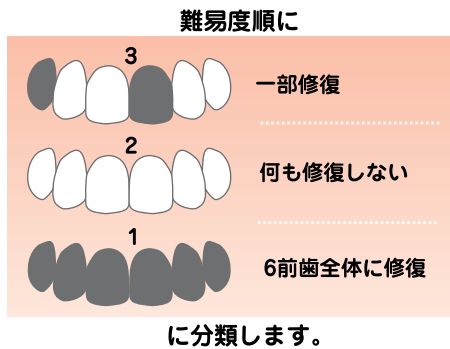


7

現在、トゥースホワイトニングは修復処置の一環としてその治療計画に組み込まれており、修復処置を行う際には、必ずトゥースホワイトニングの必要性を確認します。

この項目では、6前歯全体を修復するのか、6前歯のうち1~2本など一部を修復するかにより、難易度は変わってきます。

修復処置 (処置部)



8

トゥースホワイトニングする歯の表面性状はその効果に大きく関係しています。

具体的には、歯の表面のラスター(光沢感)とテクスチャー(凹凸感)により、トゥースホワイトニングの難易度が決まります。

臨床的には、ラスターはテクスチャーに置き換えられると判断できます。

テクスチャー (歯の表面性状)

難易度順に

3 ハイテクスチャー

2 ミドルテクスチャー

1 ローテクスチャー

になります。



(ハイテクスチャー)



(ローテクスチャー)

色は光の反射によってもたらされているため、ラスターが高いほど、テクスチャーが小さいほど光をうまく反射し、ホワイトニング効果がより一層得られたように感じられます。

以上の診査項目をもとにして診査・診断を行えば、従来、感覚的に行われていたトゥースホワイトニングを、客観的にとらえることができます。

これら8項目を、レーダーチャートとして表記することで、対象となる症例の難易度を判断することができるようになります。

1. トゥースホワイトニングにおける診査項目

トゥースホワイトニングの診査・診断においては、当然、歯の色調に関係する要素が考慮されなければなりません。歯の色調に関しては、歯冠修復物製作時におけるような「シェードテイキング」に類した方法論を用いる必要はありません。なぜなら、トゥースホワイトニングの目的が、隣在歯に同調した色調の獲得を目的とするのではなく、歯列単位や前歯部という広範囲の部位単位で、問題のある色調を健康的な状態に改善することにあるからです。

まず、トゥースホワイトニングの診断に際して、下記の項目が必要となります。

- ①着色度
- ②色の傾向(色調)
- ③バンディング
- ④ホワイトスポット
- ⑤顔の色
- ⑥修復処置(一歯)
- ⑦修復処置(処置部)
- ⑧テクスチャー(歯の表面性状)

特に、①から④については、歯の着色状態をキャラクター化することを目的に診査するものであり、ホワイトニングのしやすさ(しにくさ)を左右する主たる要素であると考えられます。

2. ホワイトニング チャート

SHADE UP Navi Whitening Chart

Tooth color examination form

File No. _____ Dr. _____

患者 _____ 年齢 _____ 性別 _____ DH (ASS) _____

難易度	難しい ←			簡単	基準値
	3	2	1		
① 着色度	重	中	軽		シェードガイド No.8, No.9 …… 重度着色 シェードガイド No.6, No.7 …… 中度着色 シェードガイド No.4, No.5 …… 軽度着色
② 色の傾向(色調)	寒色	中間色	暖色		寒色… グレー、紫色 暖色… 赤、オレンジ系
③ バンディング	強い	弱い	無		強い… 治療回数と期間が長め 無… 治療回数、期間ともに短め
④ ホワイトスポット	多い	少ない	無		多い… 修復治療と併用 無… ホワイトニングのみで対応
⑤ 顔の色	白色	赤色	黒色		白… 顔、歯の色のコントラストが小さい 黒… 顔、歯の色のコントラストが大きい
⑥ 修復処置(一歯) (一本の歯の中)	一部	無	全部		一部修復 修復なし 全体に修復
⑦ 修復処置(処置部) (前歯6本の中)	一部	無	全部		一部修復 何も修復しない 6前歯全体に修復
⑧ テクスチャー (歯の表面性状)	ハイ	ミドル	ロー		表面性状 ハイ… 表面性状 ゴラザラ ロー… 表面性状 ツルツル

ホワイトニング難易度：合計 点

20 以上：高 11～19：中 10 以下：低

総合診断

各項目の評価結果を線で結んでホワイトニング処置の難易度を判断する。

修復処置が前歯部全体(6前歯)5本か1歯の中に修復が必要となるところがあるのかの違い

SHOFU INC.

診査の8項目をそれぞれ3段階に分類する。

歯の着色状態をキャラクター化することを目的にした診査項目。これらはホワイトニングの結果を左右する主たる要素である。

目視にて判断される歯の色調の効果は、顔の色とも大きく関係する。

修復処置を行う前に必ずホワイトニングの必要性を確認する。

テクスチャーは、ホワイトニングの結果に大きく影響する。

3. レーダーチャート記入例

診査項目に従ってレーダーチャートにマークし、難易度の数字を合計してください。その合計数字により、「トータル難易度」を最終的な診査・診断の指針としてください。「シェードアップ ナビ ホワイトニングチャート」はホワイトニングを行う患者さまの初診時にご使用ください。

難易度が低い 「10以下」

中程度 「11～19」

難易度が高い 「20以上」

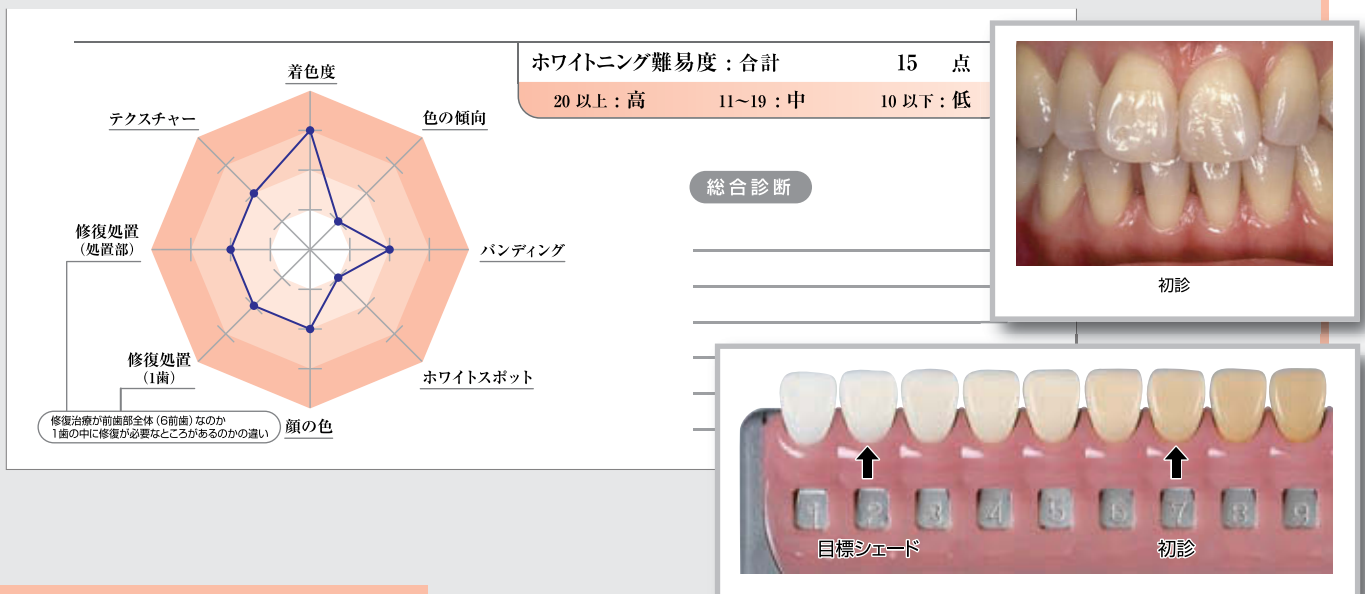
これらの各項目の評価結果をチャートに書き込み、線で結んで表示すると、視覚的にもわかりやすいでしょう。

【参考例】

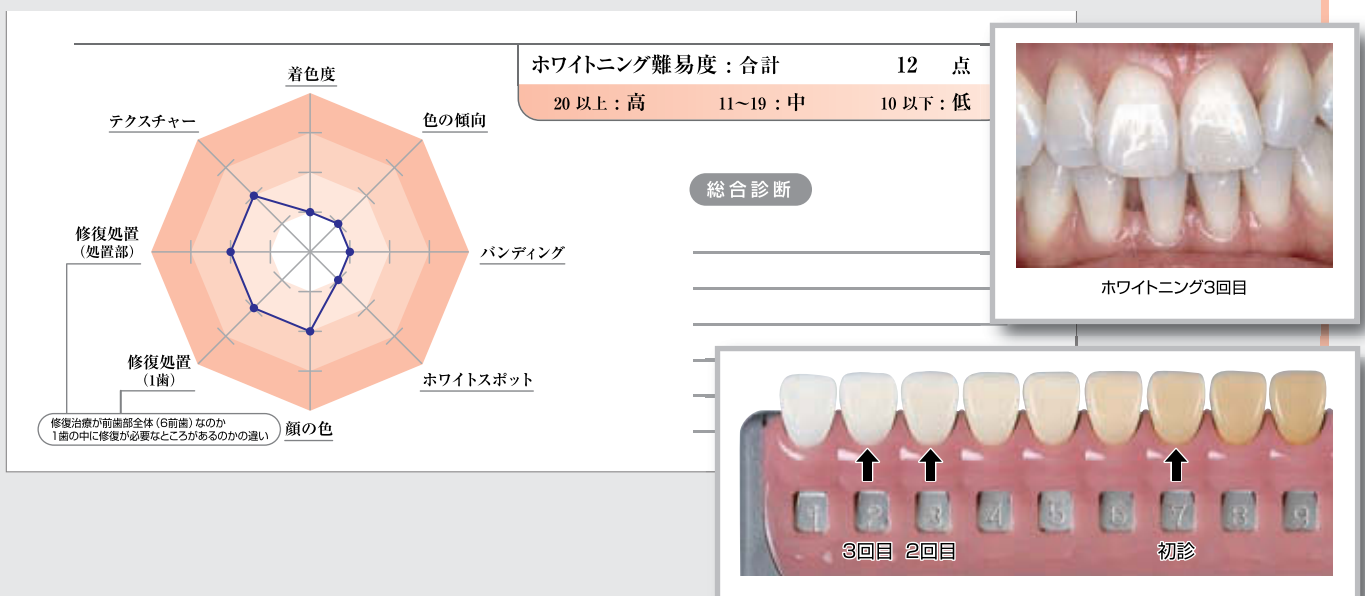
患者：2001年12月1日 初診 女性

患者の要望：できるだけ白くしたい。

総合診断：ホワイトニング難易度が中程度(シェード No.7)なので5ランクアップを目標にする。難易度は「中」だが「低」の方に近い。着色度は高いものの、他の診査における評価が低いので、要望に近い結果を得ることができると考える。



患者：2002年1月8日 3回目 女性



※印刷物のため実物とは色調が異なる場合があります。